

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

中央中学校区	校番 1	福山市東小学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月14日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○学力向上への指導工夫改善、授業力の向上 ○体力向上 ○共感的人間関係の構築、自己肯定感の高揚 ○学校情報のわかりやすい発信	児童生徒の現状 ○「基礎・基本」定着が年々向上している。 ○小中共通の取組で、中学校生活に円滑に移行できている。 ●「読みとる力」「書く力」に課題がある。 ●家庭での学習習慣及び主体的に学ぶ意識に課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	スキル・・・ A【課題発見・解決力】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ C【協調性】 D【思いやり】 ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している 1 校区合同で実施する授業研究 2 生徒会による「いじめSTOP集会」や「中学校紹介」の実施 3 小中合同で行う地域公園清掃
--	--	---	--

III 自校

ミッション すすんで学び、自ら伸びようとする子どもの育成 ～知・徳・体のバランスのとれた教育をめざして～	学校教育目標 主体的に学び 仲間とともにたくましく生きる力を育む。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 低学年 中学年 高学年	スキル・・・ A【課題発見・解決力】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ D【思いやり】 A 自分で決めたことを最後までやり通すことができる B お互いの考えを聴き合い、思いを伝え合うことができる D 相手の立場に立って、友だちの気持ちを考えることができる A 日々の学習や生活の中で課題を見つけ、解決しようと努力することができる B 他者の考えを聴き、さまざまな気づきを持ち、自分の考えと比べながら表現できる D 友だちの気持ちや周囲の思いを考えた言動ができる A 聴いたり調べたりしたことから新たな課題を設定し、解決に向けての情報収集ができる B 他者の考えの意図を感じながら聴き、自分の考えを深め、その変化を表現することができる D 相手や場に応じて適切な言動ができると同時に、今、なにをすべきかを周囲に提案できる
現状 <児童生徒> ○学習規律や家庭学習の習慣は定着し、心情面も安定している児童が多い。 ●決められたことや指示されたことはきちんとできるが、主体的な学習や行動ができにくい。 ●地域事情により絶対的な運動量が不足しがちで、体力がつきにくい。 <授業> ○おおむね落ち着いた状況の中で、授業が展開している。 ●授業は教師主導になる傾向がある。児童が自ら課題を発見し、かかわり合いの中で解決するような、学習者主体のものに改善する必要がある。 <その他> ●学校からの情報発信の質を分かりやすく高める必要がある。	教科等 社会科・体育科 研究 主題・内容等 主体的に学び かかわり合う中で 確かな力を身につける授業をめざして ① 児童が発見した課題を解決する、学習者主体の学習展開 ② 「聴き合う」キーワードに、お互いの考えを聴き合い、自分の考え深め合う場の工夫 ③ 21世紀型”スキル&倫理観”の育成を確実にする教科等間のつながりの充実	めざす授業の姿 主体的に学び かかわり合う中で 確かな力を身につける授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
						□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	設定した21世紀型”スキル&倫理観”を着実に育成する	★見直し	育成すべき”スキル&倫理観”を明確にした課題発見解決学習が展開されるようにする。	「聴き合う」をキーワードに、示範や授業研究、一斉研修を通して、学習者主体の授業に改善する。	「お互いの考えを聴き合い、自分の考えを深めている」児童質問紙70%以上。	研修などを通して、課題発見型の授業や考えを聴き合う授業についての共通認識をもち進めている。児童アンケートでの肯定的評価は84%だった。	4	5	学習者主体の学びでは、児童がどのような姿になるか、教師のイメージ共有が必要。今後の重点を①話し合いを教師の統制から「離す」②児童の考えを「聴く・つなぐ」の2点に特化して取り組む。	課題発見解決学習の展開に向け、教師の意識は高まった。左記の共通認識のもとで、授業改善や取組の共有を行った。評価指標に対する肯定的評価は84%。	4	4	4	本校の「主体的な学び」への迫り方(発想)を再構築し、焦点化した取り組みを通して課題発見解決学習の実現し、21世紀型”スキル&倫理観”を着実に育成する。
3	心身ともに健康な体をつくる。	継続	新体カテストで県平均以上の種目を80%以上にする。	昨年度の新体カテストの重点課題種目を改善するプログラムを作成し、実施する。	重点課題種目について、県平均到達率を60%以上にする。	重点課題の種目について部会で提案した内容に取り組んでいる。再測定は11月中旬予定。	3	3	児童自身が体力向上に意欲を持つことが重要。取組みの継続と共に、家庭との連携を図りながら重点課題に取り組む。	授業や朝体育などを通して、体力作りに取り組んだ。重点課題種目(握力・立ち幅跳び)についての県平均到達率が88%。	4	4	4	県平均や全国平均と比較は目安である。今後は児童が自分自身の現状や伸びから自己課題を見つけて追求する学習に改善し、体力向上につなげる。
4	開かれた学校づくりを推進する。	継続	綿密な家庭連携と保護者の期待に沿う情報発信を行い、保護者との信頼関係を構築する。	迅速な家庭連携を行う。また、学校HPや通信の情報発信は指導者や児童の思いの伝わるものにする。	「東小学校へ通わせて良かった。」保護者評価90%以上にする。	学校だよりを週1回のペースで発行した。家庭連携も細かに行なった。保護者アンケートでの肯定的評価は97%。引き続き100%を目指す。	4	5	日常から肯定的な部分も保護者に伝えることを行う。通信、HP等では行事等における学校側からねらいや思いを、一層意識的に伝えていく。	学校便りは、2月14日現在で47号。通信やHPでは、取り組みのねらいを意識して情報発信した。「東小学校へ通わせて良かった。」保護者評価98%。	4	5	4	綿密な連携、情報発信を今後も行って指導者の思いを保護者に伝え、信頼関係のもとで、児童の意欲を育てていくようにする。